

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三橋中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	個別最適な学びをより一層推進しているよう、校内研修で教員相互の参観・実践共有などを、更に充実しているようにする。基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けては、今後も繰り返し学習を行う機会を作っていく必要性は変わりないと考えている。今後も朝学習や小テストの実施などを継続していく。また、「学習の記録」を効果的に活用していたり、家庭学習の行い方の例示や学習だよりの発行など、学習習慣確立のために家庭と連携していけるようにする。	
思考・判断・表現	特に1・2学年については、思考力・判断力・表現力を伸ばす前提となる、基礎的・基本的な内容の定着に、課題があると考えられる。基礎的・基本的な内容を繰り返し指導し、定着を図った上で、レポートや発表などのパフォーマンス課題を設定し、思考・判断・表現の能力を高めているようにする。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題>各種調査で生徒の学習時間に関する質問項目は、低い傾向がある。基礎的・基本的な知識・技能の定着に向け、繰り返し取り組むことが課題となっている。 <指導上の課題>学力の定着状況に差があることから、個に応じた指導の必要性が高い。	⇒ 小テストの実施・業前活動での朝学習・家庭学習の課題設定など、基礎的・基本的な内容について、繰り返し取り組む。【通年】 授業改善に向けては、本年度より学校研究として行っている「個別最適な学び」を、さらに推進していく。各教科で公開授業を行い、教職員が参観し合う研修を行う。【2学期】
思考・判断・表現	<学習上の課題>思考力・判断力・表現力を伸ばす前提となる、基礎的事項の定着に課題があると考えられる。 <指導上の課題>生徒が自己表現する活動を設定すると共に、その過程の評価・指導改善を図る必要がある。	⇒ 各教科で、見方・考え方を働かせ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を確かにした上で、主体的・対話的で深い学びができるよう授業改善を図っていく。学校研究を進め、成果を教職員で共有しながら、指導改善に努める。【通年】 家庭と連携をとりながら学習習慣を確立し、基礎的・基本的な内容を定着を図る。【通年】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	小テストの実施・業前活動での朝学習・家庭学習の課題設定など、基礎的・基本的な内容の繰り返し取り組み機会を設けてきた。各種調査においても、知識・技能の数値は昨年度より向上が見られており、一定の成果をあげていると考えられる。 「個別最適な学び」推進のための授業改善に向け、全教職員が公開授業を行った。教職員相互に参観を行ったり、よい実践をteamsを活用して共有し、指導力の向上に向けて研修を深めることができた。
思考・判断・表現	B	上記の通り、基礎的・基本的な内容の定着に向けた取組には、一定の成果があった。教職員の校内研修の機会では、教科ごとに実践についての情報交換を行ったり、今後の授業の方法についてアドバイスし合ったりして、各教科の見方・考え方を働かせた活動の充実を図ることができた。 今年度より新たに、「学習だより」を保護者向けに発行し、定期テストの状況や、学習状況調査の結果の活用方法について、情報を発信することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語科では、全国平均を上回る結果であった。特に「漢字」の正答率は、全国を大きく上回る結果であり、ある程度定着が図られていると考えられる。一方で「語彙」に関する問題は、正答率がやや低い結果であった。 数学科では、全国平均と同水準の結果であった。「図形」の領域の知識・技能に関する問題の正答率は、高い傾向が見られた。一方で、「数と式」の領域の知識・技能に関する問題と、「データの活用」の領域の「階級」に関する問題は、やや低い傾向が見られた。	
思考・判断・表現	国語科では、全国平均を上回る結果であった。特に読むこと・書くことの内容は数値が高く、学力の向上が見られている。数学科では、全国平均を上回る結果であった。特に「図形」の「証明問題」、「確率」などの問題は、正答率が高い傾向が見られた。また、生徒質問紙調査では国語・数学共に、学習活動の充実に関する項目も、全国平均を大きく上回る結果であった。主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善が進んでいることが、生徒の意識調査からも読み取れる。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、漢字や文法の知識・技能の定着に課題が見られた。基礎的な内容の定着のため、繰り返しの学習が必要であると考えられる。 中1数学では、関数やデータの活用の領域で高い数値となった一方、数と式に課題が見られた。中2数学では昨年度の結果と比較し、数と式の数値が大きく向上し、知識・技能全体でも、数値の向上が見られた。得意・不得意の差が見られるため、学年の苦手な領域を把握し、実態に応じて指導を行っていく必要がある。 社会では、特に中1の歴史領域の内容について、知識の定着に課題があることが分かった。過去の学習内容について振り返りながら学習を進める必要がある。その他の領域については概ね市平均程度であった。 理科の知識・技能の内容は概ね市平均程度であり、基礎的定着はある程度図られていると考えられる。	
思考・判断・表現	国語は概ね市平均程度の数値であった。話すこと・聞くこと・書くことの内容は数値が高く、言語活動の充実が図られ、力がついてきていることがうかがえた。 数学は関数や図形などの領域で、低い数値となった。数と式の知識・技能には向上が見られているので、引き続き基礎的・基本的な内容の充実を図り、思考・判断・表現の能力の向上に繋げていきたい。 社会の思考・判断・表現の内容については、市平均を上回る結果となる設問も多かった。引き続き、原因や理由、他の事象との関わりなどを考えさせる活動の充実を図っていく。 理科では、中1のエネルギー、中2の粒子・生命の領域で課題が見られた。他の領域は概ね市平均程度であり、苦手領域を重点的に指導していく必要があると考えられる。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	小テストの実施・業前活動での朝学習など、各学年の実態に応じ実施することができた。テスト前を中心に、課題と計画を配付し、主体的に家庭学習に取り組めるようにした。個別最適な学びの充実に向け、校内研修に取り組んだ。	数値の低かった領域は、教科担当で共有し、重点的に指導している。引き続き、小テストの実施・業前活動での朝学習・家庭学習の課題の適切な設定、校内での授業公開など、当初の計画通り進めていく。
思考・判断・表現	B	自由進度学習について校内研修を行った。学んだ視点を生かして、各自授業実践を行い、夏休みに教科ごとに共有を行った。2学期以降の授業で生かしていけるようにする。 今年度より、新たに学習だよりの発行を始めた。定期テストの範囲や、学習のポイント、学校での取り組み等を、保護者に周知することができた。	教職員間で成果を共有しながら、授業改善の取組を続けていく。家庭との連携をすすめ、生徒の学習習慣が身に付くようにしていく。